

loses a friend loses more; but he who loses

courage loses all.

金を失ふ者は、多くを失ふ者なり、友を失ふ者

は、尙多くを失ふものなり、然れども、勇氣を失

ふ者は悉くを失ふ者なり。

Ask the purse what you buy.

買ふべきものは、財布と相談せよ。

Waste not, Want not.

浪費するな、欲がるな。

The most important element in success is

economy—economy of money and time.

成功の要素は、經濟なり。金と時との經濟なり。

No possession, but use is only rich.

所有にあらざる、使用すること即富なり。

A light purse makes a heavy heart.

輕し財布は、心を重くす。

From saving comes having.

所有は、儉約より來る。

A man's purse will never be bare,

If he knows when

To buy, to spend to spare.

買ふべく、使用すべく、節儉すべき時を知る人の

財布は嘗て空となることなし。

蛙の話

東海生

春夏の候水田の間を散歩して見ると蛙が澤山群

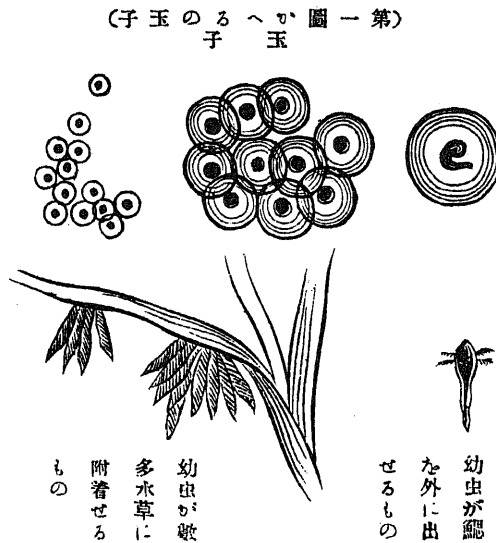
がりて聲をばりあげてないて居る、其のなくとぎ

は大層喉をふくらせるのである、あのないて居る

蛙も誰でも能く知つて居り又見ることもあるでし

よ、けれども蛙の子どもわ、どんな形をしている
 だろーか親蛙と同じ形をしているのであるか、又
 親と全く異つているかとゆーことわからぬ人が多

玉子の中に幼虫の居る圖



いだろーと思ふし
 蛙わ春に水田で卵を産む、卵の形は圓くつて大

豆位の大きいさである、そして卵の周囲にはねばね
 ばする透き通つて見える厚い皮がある、其の皮の
 中に包まれている卵は半分わ黒くつて半分わ白
 い、そして上をるときは、いつでも黒い方が上
 になつて白い方が下になつていて卵が日敷をふる
 と黒い方が段々殖えてきて白い方は段々減つてし
 まいにわ小さな點になつて終には其の點も無くな
 つてしもー。

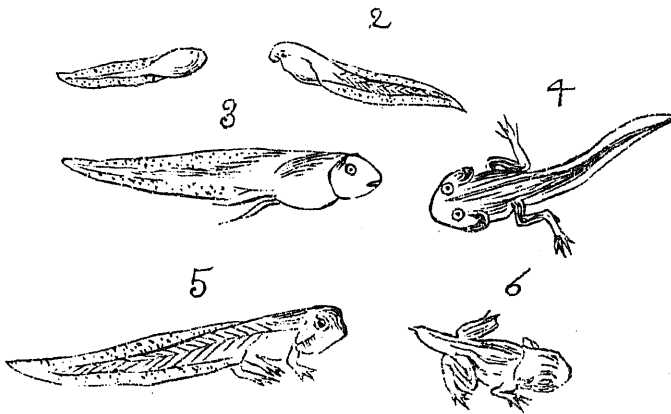
卵が今少し生長すると今度は横長い蛙の子がで
 きてくる、此の子がそろそろ卵の皮を破つて水の
 中へ出て丁度魚の様に水の中をあらちちらと泳
 ぎまわつて都合のよい草の葉や石などがあると胸
 の處で何疋も一所にくつついてしもー。

此の時には蛙の親とは大變差つていますので聲
 を出して鳴くこともできず、足がまだできないう

すからはい廻ることもできません、其の代り親には尾はないけれども此の子には體に比べて随分大きな尾を以つていたので魚の尾と同様に夫れを動かして水の中を自由自在に泳いでまわる、夫れから親は陸にいて空氣を呼吸していますから人間や毛ものゝ様に肺で呼吸致しますけれども子は水中にいて水を飲み込んだり吐き出したりしてのですから肺とは差つた處の魚の持つてゐる鰓といふものを持つてゐる此の外に追々眼ができてくる、耳ができてくる、夫れからはなもできてくる。

子どもの時の鰓は外に出てゐるので能く見ることができるが子どもが段々大きくなるにつれて小さくなつてきて能く見えぬ様になつて來て終には全く見えなくなつてきて鰓は體の兩側に包み込ま

れてしもーこんな形をしているのがおたまじやくしとゆーのでかへるの子である、この蛙の子が大きくなるにつれて足が段々大きくなつてくるが尾は段々短かくなつてくる鰓も減じてくると同時に鰓の所に肺が出来



(圖のしくやじまたお圖二第)

てくる。

鰓えらが無なくなつてきて肺はいが出來できると人間おなと同じことですから水みづの中で呼吸こききをすることができぬので是非ぜひなく永ながく住すみなれていた沼ぬまの中から陸りくの上にはい上あつてくる、しますると鰓えらわ不用ふようになつてきますから遂ついに無なくなつてしまひ、尾おも陸りくでは別べつ段だん役に立たちませぬので無なくなつてしまふこんなになつると親おやの形かたちに異ことならないものができてくる、であるから之れから別べつ段だん之れぞとゆゑ變へん化くわがなくなつて親おやと同じ大おほきさになるのである蛙かえるの子が水みづの中を泳およいでいる頃ころのものを幼虫こどもといふます、そして陸りくにはい上あつて親おやと同おな様の形かたちになつたのを成虫せいぢうといふのである。

蛙かえるは子どもの時には草くさばかりを食くつていますが後のちには昆虫こんちゆうや蚯みづづ蚓づの樣ようなものを取とつて食くふ、蛙かえるの

物を食くふのは人間おななどは差ちがつて面白おもしろい食くひ方を

する虫むしな

どが目めに

かゝると

長ながい舌したを

目めで見みる

ことを得え

ない位くらい速はや

に出いし其その

舌したにて虫むし

に粘ねん着ちやくし

て取とるの

である、

其そのの速はやさ

の早はやいのは非ひ常じょうなもので餘よ程ほどよく見みていないと舌した

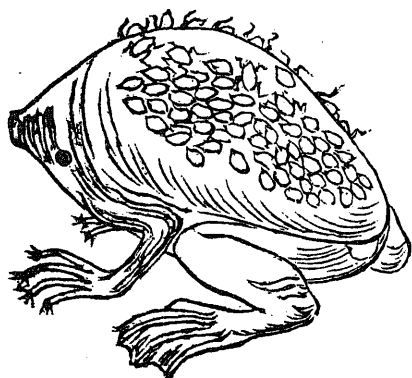


(圖ずふ食くを虫むしるへか圖ず第三)

を出すのさえも見ることを得ない位である。

蛙には色々な種類のがある足の指の先が尖つて
いるのが丸くなつてゐるのがある、指の間に
泳の役に立つ膜を以つてゐるのがある、又以てい
ないのがある、體の色にても黒いのある、赤い
のがある、青いのある夫れから黄色のがある其
の外の國にはさまざまの色を以つてゐる蛙が住
んでゐる。

種々蛙のあ
る内で子ども
をそだてるの
で一番面白
のは「ピバ」
とゆゑ蛙であ
る之れは日本



(第四圖のび圖)

にはいない南亞米利加といふ處に居るのですが此
の蛙は雌が卵を産むと雄は此の卵を雌の背の上に
くつつける、すると背に高い所と卑い穴が數まで
きてくる其の數は七十か八十位あるそうです、卵
が此の穴の中に入つてから八十日位すぎると幼虫
は獨りで動ける様になるので穴から飛び出て草の
葉や石に附着して夫れから段々生長して親と同じ
様な形になるのは前に述べたと同じである。

(完)

手をついて歌申し上ぐる蛙か那

